

【評価実施概要】

事業所番号	0170200968
法人名	合資会社 笑顔と思いやりの和
事業所名	グループホーム 和
所在地	札幌市北区篠路2条7丁目6-12 (電話) 011-771-6139
評価機関名	社団法人 北海道シルバーサービス振興会
所在地	札幌市中央区北2条西7丁目北海道社会福祉総合センター4階
訪問調査日	平成19年12月17日

【情報提供票より】 (平成19年12月12日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 14年 7月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	10 人 常勤 6人, 非常勤 4人, 常勤換算 人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	2階建ての 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円
その他の経費(月額)	・水道光熱費 25,000円 ・暖房費3,000円(11月~3月)
敷金	有(円) 無
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円) 有りの場合償却の有無 有 / 無
食材料費	朝食 350 円 昼食 400 円
	夕食 400 円 おやつ 300 円
	または1日当たり 1,333 円

(4) 利用者の概要 (12月1日現在)

利用者人数	9名 男性 4名 女性 5名
要介護1	2名 要介護2 1名
要介護3	4名 要介護4
要介護5	2名 要支援2
年齢	平均 79歳 最低 64歳 最高 95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	やしま内科・消化器科クリニック
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

中古物件をグループホームとして利用しやすく工夫して改築をし、他の地区から2年前に移転して現住所で継続して運営している。地域の中で孤立することなく、関心と協力が得られるように管理者は努力している。日頃から往診して下さる医師が月2回事業所で利用者を診察し、介護度の高い方、慢性疾患のある方など家族の安心につながり、安心して生活が出来るように、管理者が看護師であり健康面の観察や対応が充実している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>運営理念は居間や事務室に明示され、地域の方々に事業所の理解を求めている。個人の記録は分かりやすく、詳しく記載されている。緊急時、感染症共にマニュアルを作成し職員研修の課題として取り組んでいる。その他要改善の項目について検討し、出来る限りの努力をしている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者は評価について理解をしているが職員は自己評価や外部評価についての理解に欠けている点がある。評価の取り組みは全職員で対応することが望ましい。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議が開催されているが、まだ内容的に不十分で活かした取り組みは見られない。地域の中で事業所の理解が得られ、職員全員が運営推進会議の意義を共有し更なる取り組みを期待する。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>事業所として、家族に利用者の写真を渡しているが、家族に定期的なたよりなどは発行していない。利用者の様子のみでなく、お知らせ的な広報の役割を果たすものの発行を検討していただきたい。家族に面会時、話を聞いているが運営に反映出来る内容は少ないので、意見や希望を言いやすい工夫を期待したい。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>2年前に引越してから2階の住人と関係が良好で、地域との連携が出来つつある。町内会の行事に参加するように努力している。敷地の有効利用なども今後検討していただき期待したい。</p>

2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中で利用者が馴染みの生活が出来るように、職員と共に取り組みが見られるが、理念の中に文章化されていない。	○	理念の言葉の中に地域密着型サービスとしての文字が記載されることが望ましい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は事業所に明示されているが、理念に基づいたケアの見直しは充分とは言えない。	○	理念を基盤としたケアへの取り組みを職員の課題とすることが望まれる。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	隣近所、特に2階の住人と連携をとり良好な関係作りがなされている。また、町内会の行事に参加するなど地域とのつきあいを大事にしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は評価について理解をしているが、職員は自己評価をはじめ外部評価についての理解に欠けている点がある。	○	自己評価報告書の記載や取り組みなど、全職員で課題とする姿勢が求められる。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は過去に開催されているが記録の整理が未熟で内容の把握が容易でない。	○	年度内に開催が予定されていて、職員も関わって更に充実されることが望まれる。地域の中で事業所の理解が得られ、職員全員が運営推進会議の認識を共有し、更なる前進が期待される。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	区の管理者会議に出席し、行政と連携をとりつつサービスの質の向上を目指している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	事業所としては家族に定期的なたよりなどは発行していない。利用者の写真は家族に渡している。	○	事業所は利用者の様子のみでなく、お知らせ的な広報の役割を果たす印刷物を発行することが求められる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等の面会時に話を聞くことにしているが、意見を聞くことは稀である。運営への反映は少ない。	○	事業所からの発信の不足がみられ、家族等からの意見などは少ないが、出来るだけ話し合いを心がけ、運営推進会議の開催などの努力が求められる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は自ら事業所を開設し意欲を持って運営している。利用者本位にサービスに努め、職員の異動は極力少なくし、安心して暮らせるように配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	家庭的な規模で職員は日々のケアが即研修となり、学びつつ利用者に関わり良質なサービスを目指して努力を重ねている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者と職員は同業のグループホームと交流の機会をもっていない。	○	地域の中にグループホームは数ヶ所あり交流の機会をつくり、ケアサービスの向上を図ることが望まれる。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人と家族は先ず見学から始まり、話し合いを充分して了解の後サービスを開始するが、事業所が馴染みの住まいとなるように工夫をし支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は日中は居間で過ごすことが多く、飼い犬と共に職員も家族のように喜怒哀楽をともにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用が始まる前に、本人の経歴や過ごしていた様子など聞き取り、会話の出来ない利用者へ寄り添って本人本意に検討してその人らしく支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎朝の申し送りを大切に、介護計画の共有化と協力体制を確認して検討しながら、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月介護計画について職員で話し合い3ヶ月毎に見直しをしている。しかし、状況が変化した場合はその都度見直しをする。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の要望で美容室へ、病院の受診など臨機応変に対応して支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隔週往診医師が事業所を訪れ、利用者の健康管理をし、職員は馴染みになって気軽に相談できる仕組みになっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族との話し合いを重点に対応しているが、事業所としての指針や取り決めは出来ていない。	○	介護度の高い利用者や疾患のある利用者、また高齢の利用者が多いので早急に重度化対策の指針が求められる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の個別性を尊重し、一人ひとりを大切にプライバシーに配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所は介護度の高い利用者も含めて、管理者を中心に家族のように仲良く日々の暮らしを楽しんで飼い犬と共に過ごしている。決まりが優先しないで利用者本位に支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食卓は円卓で、職員の介助が必要な利用者には個別にミキサーやきざみなど食べやすいように食事を用意し、会話をしながら楽しんで食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者は週2回を目途に入浴の支援を受けている。介護度の高い利用者は2名の職員が介助し、身体の清潔を保持して気持ちよく過ごしている。。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	事業所内の家事の分担やテレビ観覧、折り紙で制作したり、室内犬と共に過ごすことで職員と利用者は楽しく日々を送っている。介護度の高い利用者も仲間として過ごしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	地域の中に安心できる散歩コースを設定し、日常的に散歩、買い物など外出支援を個別にしている。また、行事として介護タクシーを利用して車椅子の利用者も外出をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ユニットの出入りは開閉時の把握ができるように呼び鈴を設置している。また、玄関付近は透明ガラスで見通しが良く夜間のみ施錠している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は年1回、消防署の応援を頂き実施した。職員のみで地域の応援体制は不足している。災害時の協力体制は、まだ地域との連携を得るまでに至っていない。	○	地域の支援が得られるように働きかけが求められる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は栄養士の資格のある職員が作成し、摂取量や水分について個別に記録し、不足のないように配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	限られた広さに工夫があり、円卓を有効に利用して利用者は落ち着いた居場所を確保し、生活感や季節の飾りつけなど暖かい雰囲気を作られて居心地よく過ごしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は収納スペースが確保され、利用者はそれぞれ馴染みの品を持ち込み、安心の居場所になっている。		

※  は、重点項目。